

《担当者名》冨家 直明 (tomie@hoku-iryo-u.ac.jp)

【概要】

学齢期の子どもの発達と教育に関する基礎理論、子どもの心理的問題について理解することに加えて、必要となるアセスメントの方法と心理的支援法を修得することを目的として、将来の公認心理師に必要とされるリテラシーを涵養する。主体的で対話的な学び（アクティブラーニング）を取り入れた授業を行う。

【学修目標】

- 教育の現状と教育に関する制度について理解する。
- 教育現場において生じる問題及びその背景について理解する。
- 教育現場における必要な支援について理解する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	教育学校心理学とは	教育学校心理学の学問的背景について理解する。	冨家 直明
2	学校の組織制度 学修目標	教育機関の法律、制度、倫理や、学校の組織と教育関連施設のあり方について理解する。	冨家 直明
3	学習・授業の課題と支援 学修目標	子どもの学業不振、アセスメントの在り方、支援的授業、個別的な学習支援について理解する。	冨家 直明
4	学級経営の課題と支援 学修目標	学級集団、学校の教育問題と学級集団、学級集団に起因する問題に対する支援について理解する。	冨家 直明
5	生徒指導の課題と支援 学修目標	生徒指導、生徒指導に関する諸課題、スクールカウンセラーの役割について理解する。	冨家 直明
6	キャリア教育の課題と支援 学修目標	キャリア教育、学校段階毎の課題と支援について理解する。	冨家 直明
7	メンタルヘルス教育の課題と実践 学修目標	メンタルヘルスの現状、メンタルヘルス教育と支援、いじめや不登校の問題について理解する。	冨家 直明
8	健康教育の課題と支援 学修目標	学校における健康教育の意義、子どもたちの健康課題とその対応、健康教育の展望について理解する。	冨家 直明
9	特別支援教育の課題と支援 学修目標	障害児・者に関わる法律、障害児・者の心理的特徴と支援、学校における特別支援教育について理解する。	冨家 直明
10	教育・学校をめぐる新たな課題と支援 学修目標	保護者対応、子どもの貧困、児童虐待について理解する。	冨家 直明
11	学校・教育システムの連携による支援 学修目標	家庭、学校、地域社会との連携について理解する。	冨家 直明
12	多様な職種によるチーム援助 学修目標	チーム学校における多職種連携、チーム援助の方法について理解する。	冨家 直明
13	教育・学校心理学に基づく公認心理師に求められる実践と役割 学修目標	教育学校心理学の実践モデル、教育分野における公認心理師に求められる行為、教育分野における公認心理師への期待と公認心理師活用の課題について理解する。	冨家 直明
14	教育分野に関する公認心理師国家試験を考える	教育分野に関する公認心理師国家試験の問題を概観する。	冨家 直明
15	教育分野に関する公認心理師国家試験を考える	教育分野に関する公認心理師国家試験の問題の概観を通して、今後の学習計画を見直す。	冨家 直明

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】
導入している

【評価方法】
レポート100%

【教科書】
公認心理師スタンダードテキストシリーズ「教育・学校心理学」（ミネルヴァ書房）

【参考書】
誠信心理学辞典（誠信書房）

【備考】
講義内容は日本心理学会、公認心理師養成大学教員連絡協議会が策定した公認心理師大学カリキュラム標準シラバスに従う。

【学修の準備】
検索や資料の閲覧などの宿題を出すので、授業時間外に行うこと（90分）

【ディプロマポリシーとの関連】
DP1. 心の問題にかかわる職業人として必要な幅広い教養と専門的知識を修得している。
DP3. 社会の様々な分野において、心の問題を評価し、それを適切に判断し援助できる基礎的技能を修得している。
上記、心理科学部ディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験】
公認心理師・スクールカウンセラー

【実務経験を活かした教育内容】
公認心理師としてスクールカウンセラー等の実務経験を有しており、それらを反映させた授業を行う。